

「2024年韓国・延世大学校スプリングスクール派遣報告書」

京都大学理学部4年 川端 健太

①学習成果

海外留学は今回が初めてだったが、思っていたほどハードルの高いものではないと感じた。もちろん費用などはそれなりにかかるが、それ以上に他国に行かないと得られない経験や楽しさがあり、機会があれば是非また海外へ行ってみたいと感じた。また、以前から国際交流には興味があったが、「日本に來ている外国人と交流する」のではなく「自分が外国に行き現地の人と交流する」ことによる面白みがあり、より国際交流への関心が高まった。

②海外での経験

韓国は日本から近いこともあり、気温が少し低いくらいで気候はかなり似ていたので過ごしやすかった。食べ物に関しては辛い物が日本よりもずっと辛めの味付けで、個人的な好みと合致していたこともあり非常に満足できた。滞在期間中に찜질방（日本のスーパー銭湯のようなところ）に行く機会があったが、そういった生活に根差した場所は観光客がほとんどおらず、文化の違いをより間近で体験することができ、とても良い経験になった。また、滞在後半には飲食店などの注文で聞き返されることも少なくなっていき、自身の韓国語力の伸びを実感できたのが嬉しかった。

③プログラム内容

延世大学での特別聴講では国際学部の学生たちが自分の意見を積極的に表明している姿がとても印象的だった。京大ではディベート形式の授業であっても学生たちがあれほど積極的に発言する様子は見たことがなく、彼らの思考の瞬発力と意見を組み立てる上手さに感銘すら覚え、とても良い刺激となった。日韓関係の特別講義も非常に面白く、日本の学校では習わない範囲の歴史や、当時の韓国国内の世論などにも触れながら話を進めてくれたので退屈することなく受講することができた。語学堂では先生が韓国語のみを使って授業を行っていたが、おかげで韓国語の音や雰囲気になれることができたと思う。

④進路への影響についてもともと修士進学の後どのような業種に進みたいかはっきりとした希望はなかったが、今回の留学を通じて人と関わる仕事、国際的に活躍できる仕事をしてみたいと思うようになった。

UIC: 延世大学の授業を聴講するということで先生の話聞くのがメインの講義だと思っていた。しかし実際に受けてみると、学生が主体となって課題文の解釈や自分の意見を述べ、それに対して他の学生が補足や異なる意見をつけ足していくスタイルの講義で、先生は課題文解釈の方針や議論のまとめ上げの補助をメインに行っており、京大ではこういった形式の授業はあまり多くないので新鮮だった。なによりも、学生たちが積極的に意見を発表する姿と、他人の発言した内容を踏まえたうえで自分の意見を構築する速さに驚かされた。先生もおっしゃっていたが、常日頃からクリティカルシンキングの姿勢を持ち続けあらゆる物事に対して自分の立場を明確にしているのだろうと感じ、見習うべき姿だと思った。自分は常々どっちつかずになってしまいがちなところがあるが、それは思考を放棄してある意味楽をしようとしているのではないかと気づき、延世の学生たちのような積極性と常に考え、議論の中で自分の立ち位置を探り続ける姿勢を持たなければならないと、とても良い刺激を受けた。

日韓関係: 日韓の関係についてそれぞれの歴史を追いながら、どのように変化してきたのか解説して下さったのでとても分かりやすかった。また、日本の歴史の教科書では扱わない韓国の内情なども詳しく知ることができ

て面白かった。歴史の講義は本当に久しぶりに受けたが、あんなにも退屈せずに聞くことができたのは初めてだったかもしれない。特に、日韓関係の話をメインに据えながら両国だけでなくヨーロッパやアメリカなど他国の思惑なども絡めて話を展開してくださったので、様々な出来事の起こった理由やその後の動向などが理解しやすく、ところどころ日本語も交えてくださったのでありがたかった。もちろん日本史の内容にも触れてくださったのだが、そこについて自分が知らなかったことが多く、自国の歴史を他の国の人に説明できるほど詳しく知らないことに気づかされた。国際交流において他国に目を向けるだけでなく自国についてどれだけ知っているのか振り返るいい機会になった。